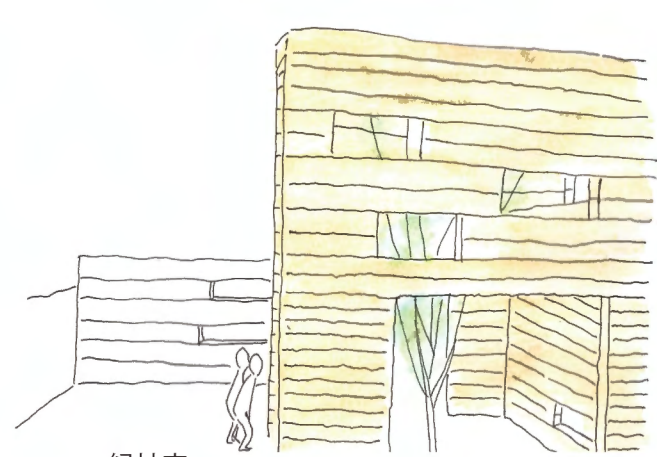


屋外円庭



緑被率

保育園を中心に80m四方の敷地内を切り取って緑被率を調べました。北には公園があるものの周辺は緑が少ないことから、室内に草木を植え込み、緑の多い木育広場をすることを重要視しました。ここでは、草木とのふれあいによる子どもの成長を見守るような保育園を目指します。園内からは、外と住宅地の樹木が眺められる窓があります。2歳児の保育室は屋内花壇に接し、自然と育む空間を計画しました。何よりも願うことは、ひまわり畑が園内と保育園周辺一杯に広がり、保育園とひまわり畑が町のシンボルに育っていくことです。2歳児の思い出に寄り添える建築ってほんとうにすばらしいです。

円庭や保育室で遊んでいる子どもたちの声は、床高1mの下にある換気システムから流れる上昇気流によってどこまでも上にのぼっていきます。園児の声は住宅地に心地よさを与えます。

* * *

周りの公園や道ばた、駐車場。保育園の周囲を巻き込んでひまわり畑を作っていくことで保育園と周囲の連携を深めます。

木材の組積の間窓（空洞）

木材で組積された間窓（空洞）は、まず子どもの顔の高さに設置しました。基礎から1m以内に間窓（空洞）を多く入れる事で近所の人たちと目線がよく合うようになります。園児たちが中にいても外との交流がよくできるようになっています。保育園の北側の木材の組積の壁は上の方に多く間窓（空洞）を設置しました。上側に設置する事で子どもたちは公園の木を見る事が出来ます。子どもたちは外にいるような感覚が味わえます。

土手のコミュニケーション

2歳児の部屋には外を見る事が出来るふれあいトンネルがあります。円庭では外の人とコミュニケーションがとれないので土手でコミュニケーションをとれるようにしています。散歩しているお年寄りグループと子どもグループでコミュニケーションをします。ガラス越しですが窓を開ける事によってお互いの声が聞こえます。土手の5つのふれあいトンネルは、笑顔の額縁になります。

北側にある公園

保育園の北側には公園があります。非常口でありながら通常は2歳児が直接散歩でき、交通対策になっています。

小学生との交流

小学校側にもふれあいトンネルがあり小学生と園児たちが交流することが出来ます。

保育園の中にある円庭

保育園には外から見えない円庭があります。不審者などが園児に触れる事なく安心して遊びます。

Aゾーン

おもに乳児や病児が活動するので外との高低差をなくし安全性に配慮しています。

Bゾーン

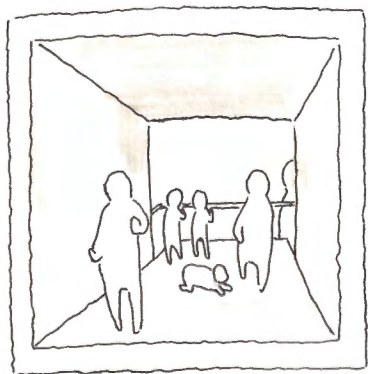
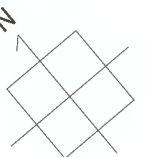
床高は1m上がっています。1/20のゆるやかな勾配のスロープにすることにより1歳から2歳の園児たちは高低差で走ります。年齢に応じた高低差を目指しました。

開けた南側

南側には住宅が並んでいます。保育園の南側は木材の組積の壁になっていて空いている間窓（空洞）から中の様子が見えることで町全体が子どもたちを見守る目になっています。

風の流れ

南と南東から風が吹いてきます。保育園の右側の床を1m上げる事によって円庭に風を吹き込ませる装置になっています。夏も空気がこもる事が無いです。



ふれあいトンネルは、北側と西側の歩道を歩く人たちが園児を見守ります。

2歳に咲くひまわり

私は今、ひまわり畑にいます。中学校の下校時によく立ち止まった小さなひまわり畑です。私よりも小さいひまわりが、1週間も経たないうちに私をぬいていきます。元気いっぱい背伸びして私をひっぱっていきます。そんなひまわりを、私は毎日ノートに描きました。1日1本。ぐんぐん成長するひまわりは私自身のようでした。

* * *

2年生になると、私が描いたひまわりが、下駄箱の上に飾られました。一番人目に付く一等地です。

私のひまわりは、中学校のシンボルにまで成長しました。

* * *

私の2歳は、母のそばで花を摘んでいました。母のそばはいつも温かい香りに包まれています。18歳の私にとっても、2歳のあの花畑が、思い出いっぱいの風景です。

* * *

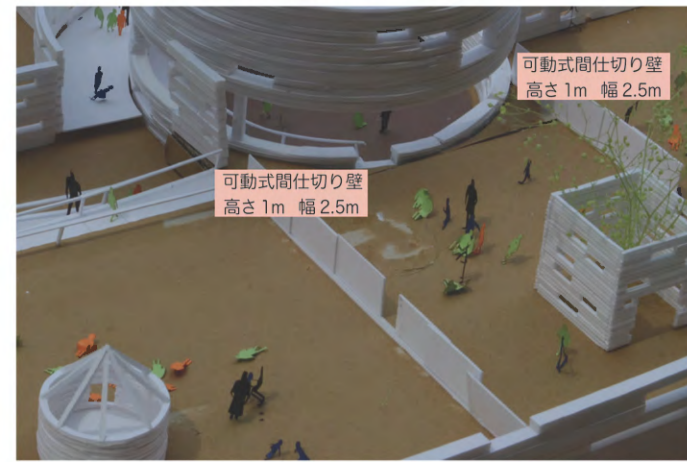
保育園で走っている園児たちもひまわりのように。町のあちらこちらに小さなひまわり畑を増やします。駐車場にも、公園の端にも。保育園で園児たちの成長を見守るひまわりが2歳の私を追い抜いて行きます。



②可動式間仕切り壁

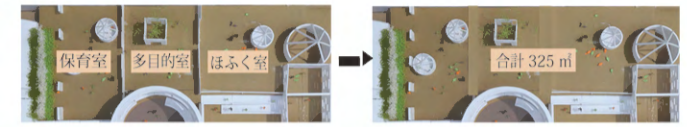
① 高低差で部屋を分ける

③園内に咲くひまわり畑



保育室・多目的室・ほふく室を仕切る可動式間仕切り壁

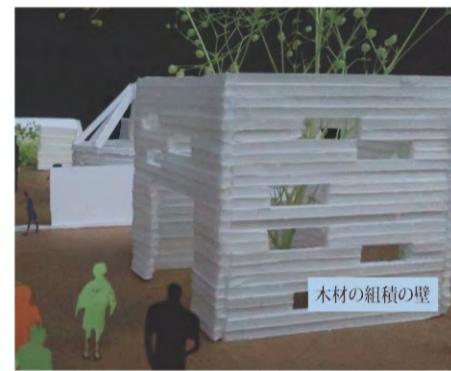
可動式間仕切り壁：高さ1m、幅2.5mの移動扉を連立させます。保育室の必要に応じて3室が全開できます。保育士は高さ1mの間仕切り壁の上から園児を見渡すことができ、園児の視線は部屋が区切られます。



保育室 + 多目的室 + ほふく室 = 325㎡
全開すると325㎡になります。

木材の組積の壁

外周壁は150mm角、間仕切り壁は120mm角の木材を水平に積んで木材の組積の壁を作ります。園児が覗けるような空洞（隙間窓）を低い位置に多く作ります。木材を層のように積んでいくことで耐久性が上がります。



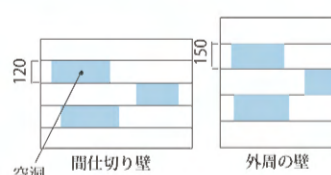
木材の組積の間仕切り壁

ふれあいトンネル



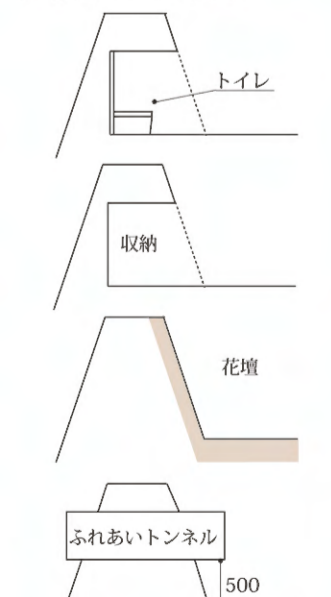
西側と北側のふれあいトンネル

ふれあいトンネル（幅1.5m、高さ1.5m）の床は室内の床から高さ50cmの高さに設置します。小学校がある西面に2か所、歩行者専用道路がある北面に2か所設置します。屋外側には開閉できるガラス窓があります。

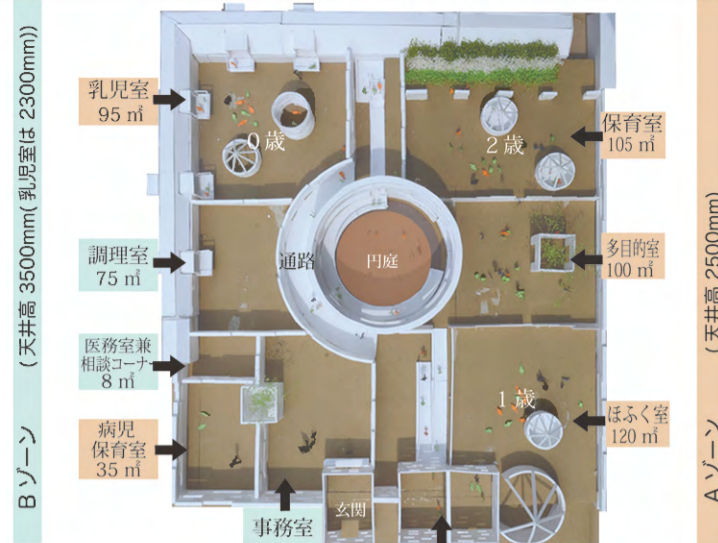


組積の壁の木材寸法

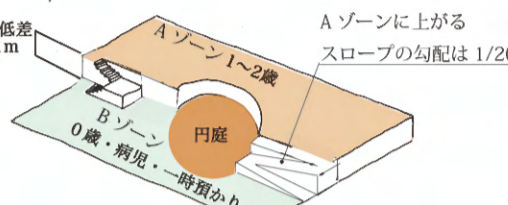
木材の組積の壁のうち、外周の壁は150mm角の木材で作られ、全長は86mになります。間仕切り壁は120mm角の木材で作られ、全長は144mになります。



土手の使用法は4点を提案します



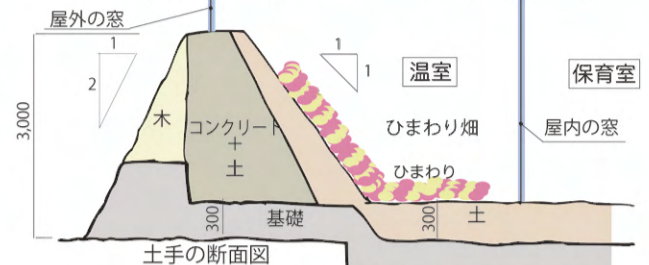
1~2歳の使用するAゾーンと1歳未満・一時預かり・病児の使用するBゾーン高低差を1mの高低差で分けます。Aゾーンにいる保育士の目が全体に行届きます。



AゾーンとBゾーンの高低差



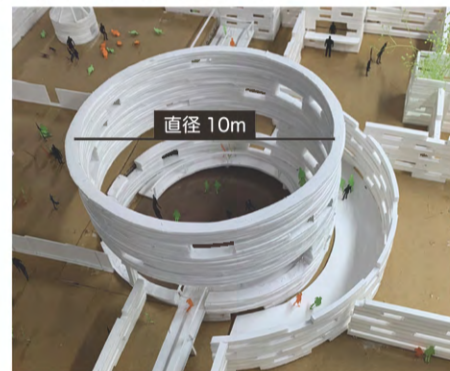
2歳児の保育室に植えた円筒花壇、土手沿い花壇



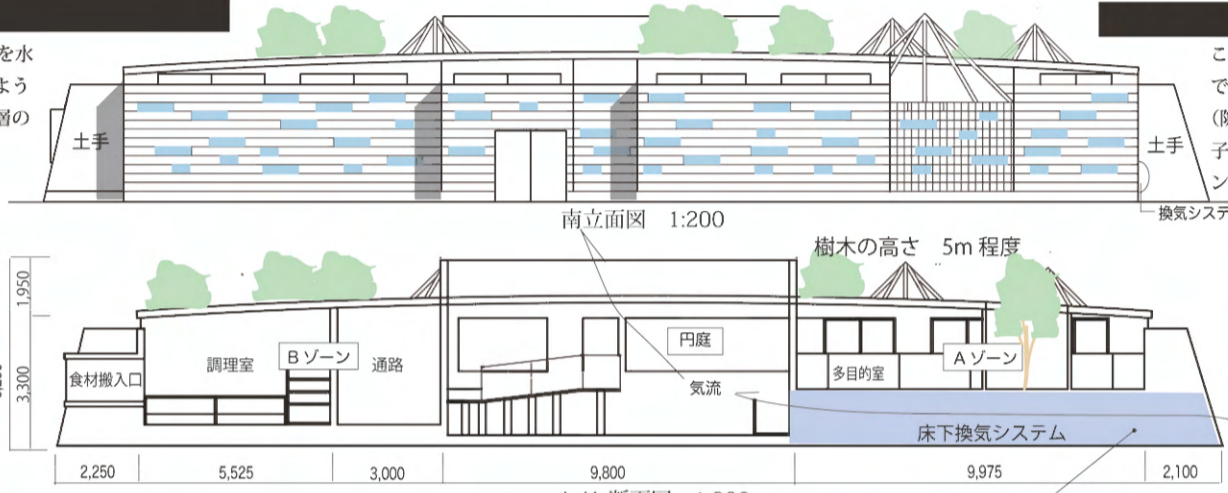
屋外の窓と屋内の窓との間に花壇を作り、ひまわり畑を作ります。ひまわり畑の土が道路側へ崩れていかないように、土手を作ります。外側の基礎の高さを高くし、木の部分を三角形にして道路側に土が崩れていかないようにして、中心の土は強度を出すためにコンクリートを混ぜます。

屋外円庭

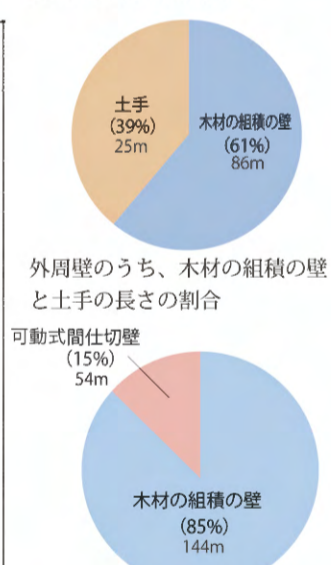
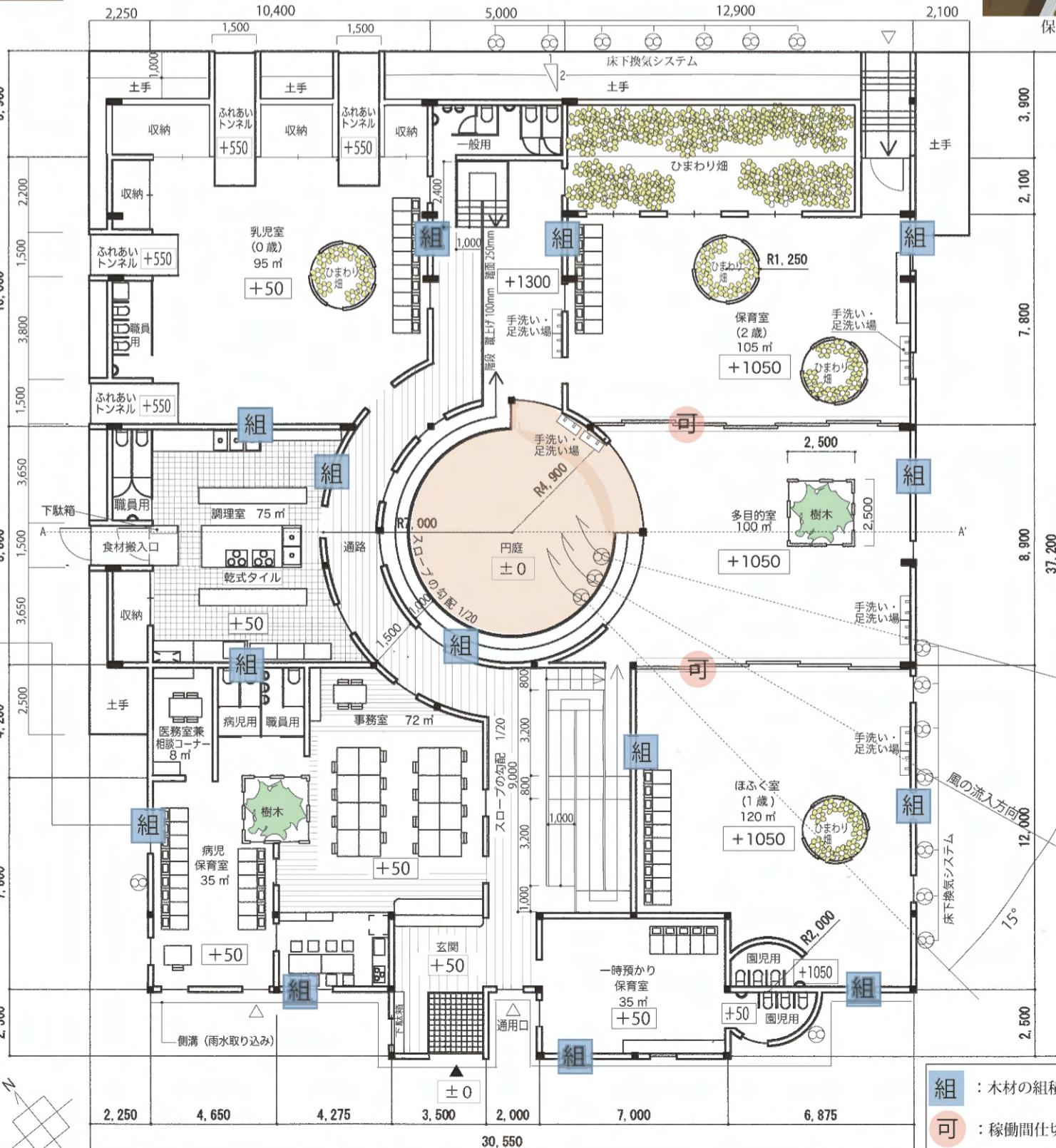
この円庭は屋外になり直径は10m、周りは木材の組積の壁でできています。組積の壁で作ることによって覗き穴のような空洞（隙間窓）をつくり、園児や保育士が部屋や通路から円庭の様子を眺められます。この円庭を建物の中心に置くことでスパンの長い各部屋の明かり採りになります。



保育園の中心にある屋外円庭



Aゾーンの床下に、円庭に気流を送る床下換気システムを設計し、円庭の通気を良くする。



円筒花壇

円筒花壇は、木材の組積の壁でできており、直径は2.5m、壁の高さは1m、その上に高さ1mの三角屋根を作ります。円筒の中に入ると花の香りが充満しています。円筒花壇は保育室・ほふく室・乳児室に設置します。



乳児室の円筒花壇

主要な柱

- 組：木材の組積の壁を表す
- 可：稼働間仕切り壁を表す
- ：150×300柱（木製）
- ：150×150柱（木製）